

「千曲寮」の思い出

丸山隆平（9組）

テストの点数上位者の名前を貼り出すなど、あまり良い思い出がない高校・浪人時代の後、晴れて大学生となり、勉強よりサークルの虜になった人も少なくないと思うが、私の場合の思い出は4年間過ごした「千曲寮」だった。

「千曲寮」とは、HP(<https://www.chikumaryo.com> もちろん私が在寮時代には存在しなかったが)には次のように記されている。

「公益財団法人千曲寮は、郷土の大先輩、五島慶太翁などが中心的発起人となり、上田城主の末裔松平家の協力を得て、大正7(1918)年、千代田区三番町にあった松平家屋敷跡を借り受け創立されました。・・・以来先輩の築いた伝統を受け継ぎ、OB 役員がボランティアで運営・支援する長野県出身者および関係者のための学生寮です。・・・いろいろな高校出身の、いろいろな学校に通う友人との出会いがあり、一生の友達が出来ます。寮費は極めて安く（編集者

注：当時の寮費は10,000円/月、現在は43,000円/月）、保護者には大変喜ばれております」

私は三番町最後の入寮生で、大学1年は三番町、2年以降は移転した三鷹市で、高校同期では、私が1年の時に、関森寿一君(4組)、丸山芳春君(10組)が2年にいた。三鷹に移転した2年の時には、牧野泰晴君(1組)、塩川明男君(6組)、3年の時は土屋雄三君(9組)が入寮して来た。

私の場合は「学生運動」という時代背景があった。大学は1年と4年はまともに通えたが、2、3年はストライキで校舎が封鎖、その分、寮生活が充実することとなった。

途中で退寮する人が少なくない中、その分、4年間を過ごした「千曲寮」の思い出が深い。麻雀、ダンスパーティー、合ハイ、競馬場警備やスーパーの清掃のアルバイト、飲み会、寮祭等々を通じ、野沢北、屋代、長野、松本深志など他校出身者との友情も深まった。大学4年のゼミ旅行も、寮祭委員長を優先して不参加だったほどだ。

就職が決まり4年の3月、引っ越しの荷物を積んだトラックに乗り込む時、後輩たちが門に並び、寮歌を

歌い、万歳をしてくれたことも思い出す。

私にとっての「青春の門」が「千曲寮」だ。

旧三番町の屋上で麻雀を
(正面が筆者)

(2023年4月11日)

以上

